THE ROTARY CLUB OF YAMATO－NAKA

大和中ロータリークラブ会報

YOU ARE THE KEY あなたが鍵です

1985～'86 R.I 会長 エドワード F カドマン

上田会長 クラブターゲット 仲よく 語ろう ロータリー

第370回 例会 60年11月14日 第376号

出席報告

会員数	出席数	出席率	前回の修正
56名	38名	69.09%	98.18%

欠席者（17名） 病欠（1名）

細野 橋本 神作 金井 木村 小林 熊倉
松本㈢ 三浦 中西 大西 染矢 鈴木
竹本 種ケ島 渡辺 山中

本日のプログラム	11月21日
斉藤隆寿氏（地区ロータリー財団推進委員）「ロータリー財団について」	
次週予定	11月28日
太田一穂氏（日本ビクター大和工場開発部）「CDプレーヤーの開発から発売までの推移」	

司会 SAA 伊藤英夫君
ソングリーダー 北砂富三君
「それでこそロータリー」

≪ゲスト≫

津田 進氏（第259地区直前ガバナー）

≪ビジター≫

光島 督君（軽井沢）
池田升雄君 保坂芳秀君（横浜瀬谷）
星 幸男君 籾山芳久君 妻倉 旭君
堀 一一君 奥岨宏一君 矢島 悍君
金 未守君（大和）
仁藤文次郎君 菅沼善次郎君 水島 浣君
関沢忠雄君 福田武辯君（大和田園）

≪会長報告≫

◦11月9日㈯大和ライオンズクラブの創立20周年記念式典に出席して参りました。ライオンズといゝますと団体と金銭でWe Serve ということになるのですが、どうも私の印象では、団体性の中にすこし個人的な考え方が導入されてきており、少し変ってきているのではないかという感じでした。ロータリーもしっかりしなくてはいけないという思いを持って帰って参りました。

◦本日は皆様ご承知のように「決議23－34号」について津田パストガバナーよりお話いたゞきまして、後に討論をさせていたゞきたいと思います。

◦東慶州RCの会報が届いておりますのでご覧下さい。

≪幹事報告≫

◦本日例会後、定例理事役員会を開催致しますので宜しくお願い致します。

1．真実かどうか
2．みんなに公平か
3．好意と友情を深めるか
4．みんなのためになるかどうか

事務所：大和市中央1－5－40
大和市商工会館内
☎0462－63－7926
例会場：大和市大和南1－4－4
八千代信用金庫大和支店4階
☎0462－64－3654

例会日：毎週木曜日12時30分より
会長：上田利久
会長イレクト：藤田重成
副会長：富沢重徳
幹事：近藤富士男
会報委員：松崎・種ケ島・木村

≪委員会報告≫

会員増強委員会　　委員長　二見長幸君

先週、長谷川ロータリー情報委員長よりご報告がありましたが、会員増強をテーマとした情報交換の炉辺会合を、21日㈭と26日㈫の6時よりふな忠さんで行ないます。本日出欠表をお廻わし致しますので、どちらかご都合の宜しい日に印をつけて下さい。尚職業分類と会員選考の委員会の方々は出来ましたら2日ともご出席いたゞければ幸いです。

親睦活動委員会　　委員長　上村幹雄君

新しくお入りになられました方々との親睦を深めるための会を　明15日㈮19時より「たまも」で開催致したいと思いますので有志の方々のご出席をお願い致します。夕食を兼ねて2～3時間行ないたいと考えておりますので宜しくお願い致します。

≪お　祝≫　**おめでとうございます！**

5年皆出席	高橋政勝君	
入会記念日	高橋政勝君	(55年10月30日)
	原田　穆君	(57年11月18日)
	小島健一君	(　〃　)

ロータリー・イグニッション

私達のクラブを、特に奉仕を行うために設計されたエンジンと考えてみよう。このエンジンは、親睦、熱意、善意などを燃料として作動する。すべての部品（会員）が調和を保って動くことにより、ひとつひとつが独自に活動するよりも、はるかに大きな成果をあげることができる。しかし、ほかの機械と同様、使用されなかったり適切に整備されないと、さびついてしまう。

カドマン会長が述べているように：「**あなたが鍵です**」。この機械を始動させよう、そうすればみんなで一斉に始めることができよう。

≪ゲストスピーカー≫　**津田進パストガバナー**

「決議23－34号の行方」

昨年公式訪問で90クラブを廻りましたが、その中には大変イキの良い元気のよいクラブがいくつかありました。こちらのクラブはその中でも一番印象に残ったクラブでございまして是非ともこういうクラブの方々にロータリーの正しい道、そして大道を力強く歩み続けていたゞきたいと、そしてこの地区の推進力になっていただきたいという事を私共は心から願っているわけでございます。今回は星先生の御尽力によりましてこちらでお話する機会を与えていたゞき有難うございました。12月には又合同例会へ出させていたゞくことになっており重ね重ね有難く思っております。

先達の地区大会に於きまして、私は来年2月3日から6日まで4日間に亘ってシカゴで開かれます規定審議会の、この地区のクラブ代表ということに決まりました。規定審議会に今度かゝる案件というものは218件現在手もとに来ておりますが、決議案ですと規定審議会の当日まで出せる事になっております。元来ロータリーの定款細則を決める審議というものは、国際ロータリーの会員でございますロータリークラブが行なわなければならないことになっております。ロータリアンは国際ロータリーの会員ではありません。ロータリークラブが会員です。この規定審議会は国際ロータリーの定款、細則の改正を審議するという重大な会議でございまして、地区から1名の代議員が出席し世界で430人位の人が集まり審議をするということになっております。が、これは本来の代議員ではないと理解しております。本来審議する方はクラブでございまして一応形式的な議員であると思っております。従いましてこの規定審議会で採択された案というものは、直ちに発効致しま

せんで恐らく4月頃になると思いますが、各クラブへ採択された案件が廻って参ります。それをもう一度クラブで審議しなおすというのが本当の審議でございますので、どうかそれをご注目いたゞきたいと思います。規定審議会で採択されておりましても、クラブがこれを否決すればその否決の票を事務総長あてに送ることが出来ます。そしてその票数が全世界の票数の10％を超えますと規定審議会を通った議案であってもこれは直ちに発効致しませんで、もう一度国際大会にかけられます。それを審議するのは正式なクラブの代表代議員であります。そういう方々によってもう一度審議しなおされるという形をとっております。これが正式な審議であります。どうか4月頃に参ります一応採択された決定案についてご審議を慎重にお願いしたいと思っております。

先程の会長さんのお話の中にライオンズの性格が変ってきているというお話がございましたが、このライオンズの成り立ちというものを思い起してみますと、ライオンズクラブはロータリーから分れて出来たのだといわれております。初期のシカゴクラブにメルビン・ジョーンズという会員がいて、ロータリーの何とも理屈っぽい、しち面倒くさい理論というものにあきあきしてしまい、もっと奉仕活動に傾倒出来る行動的なクラブをつくろうと思い立った。そこでシカゴクラブを飛び出しライオンズをつくった。という話が一般の方々に信じられております。処がこれは間違いでして正確な話は、こうであるということをこれから申しあげるわけですが、実は最近のロータリーというものがこのメルビン・ジョーンズの誤り伝えられている伝記のように、そのまゝに今や再現しつゝあるということを先ず申しあげておかなければならないだろうと思います。

シカゴ市内にビジネスサークルと呼ばれる男性実業家グループが出来ましたのは1907年です。ロータリーの創立は1905年ですからその2年後に出来たクラブです。当時アメリカに於きましてはロータリー創立の影響を受けまして、男ばかりで昼食を一緒にするクラブがアメリカ中にはやっていまして、いろいろな名称のクラブが乱立しておりました。これらのクラブの多くはその会員の間で「オレの商売の面倒をみてくれ。その代りオレはオマエのをみよう」、そういった式の約束が交わされました。彼等自身お互の背中の流しっくらという風に言っておりますが、完全に商売そのものゝ集りであったわけでございます。会員達はお互の商売とか精神をひきたて合う〝ちょうちん持ち〟をし、それから利便をはかってやるわけです。しかしこうした結びつきというものは何年か後には惰性と無気力にむしばまれましてあとかたもなく消え去っていくという状態でございました。

1913年の3月保険業を営んでおりますメルビン・ジョーンズは33才を迎えました。そして彼は西部独得の鼻がかった発音が特徴であったといわれております。そして顔には絶えず微笑を浮かべている人物であったそうです。ある日仕事で知り合った友達に〝ちょっとした仲間達の集りに来ないか〟と誘われ、その日から毎週、ボストン風カニ料理店で昼食会を開いているビジネスサークルの会員となりました。

こゝで一寸思い出してみて下さいシカゴロータリークラブの第3回目の会合は1905年の3月23日に開かれておりますが、この会合に3人の新会員が入会しております。これで9人の会員となるわけですが、アーサー・アーウィン。アル・ホワイト。チャールズ・ニュートンの3人でした。

このチャールズ・ニュートンという人が保険業者です。彼はあだ名を弁論少年といわれておりましたが、このいわれは、当時ロータリーの初期の規約というものが審議されていましたが、その討論がはじまりますと彼は〝何がロータリーをこういう風にしたか〟ということを独自の自論で真剣に申し述べたことから付いたといわれております。

そしてチャールズ・ニュートンは初期シカゴクラブの定款起算委員をつとめております。この委員は3名でした。彼は1923年にはシカゴクラブの会長に就任しております。

シカゴクラブが第1回の会合に於いて一業一会員の構想をはっきり打ち出していますので、同じ保険業者のチャールズ・ニュートンのような会員がすでにシカゴロータリーに入会していてはメルビン・ジョーンズが同業者としてロータリーに入れるわけがない。はじめに申し上げましたライオンズ設立のいきさつというものが間違いであるということが、これでお解りいたゞけたと思うわけです。

さて、メルビン・ジョーンズがビジネスサークルに入会してみますと、こゝも結成以来6年目を迎えているのですが、やはり他の雨後のタケノコのように出来たお互いの商売の提灯持ちクラブの例外にもれませんで、惰性と無気力にむしばまれて会員が相次いで脱退しており会の存立も危うくなっておりました。しかし生れながらのセールスマンでありまして、組織化というものに天賦の才を持っておりましたメルビン・ジョーンズの入会を得まして、事情は一変するわけです。一年足らずの間にメルビンの熱意というものは会員全員の認めるところとなりまして、幹事に推され、その彼の奔走によって会員数は250名に達しました。処がこの頃になってジョーンズは会のあり方に疑問を抱くようになります。各業界で成功を収めている200人もの会員がいるクラブであるならば、もっと社会に有益なことに力を発揮出来ないだろうか。たゞ集って食事をして肩を叩き合って商売のことを話し合い、うまい話がまとまれば大いに満足して帰っていく。それがシカゴだけでなく全国的にこうした会合が毎日開かれている。商売上のことだけでなくて社会全般の向上に役立つ話が何故そうした会で出来ないのだろうか。メルビン・ジョーンズは自問自答を繰り返すわけであります。

そして一つの考えが彼の頭に浮かんでくる。

ラテンアメリカの同じような集りに呼びかけてみよう。そして協会をつくってみよう。そしてこの立派な社会的地位を得ている大勢の人々の余暇を利用出来れば、それは社会の改善のためにどれ程有益かわからない。という考えに達するわけです。

1916年ジョーンズはこの考えのもとに新しい提案をビジネスサークルの役員会に提出致します。

役員会は彼の提案を承認致しまして、ジョーンズはいよいよ行動をおこすわけであります。

1917年の6月7日木の午後、シカゴのホテル・ラサールのイーストルームにメルビン・ジョーンズの招請に答え、アメリカ合衆国内各地から27のクラブを代表する意気軒高とした20名の代議員が集まります。その日の午後遅く閉会した時にライオニズムというものは事実上の誕生をみたわけであります。その後第1回大会を同年10月8日にテキサス州のダラスのアドルフスホテルで開催致します。第2回大会を翌18年8月にセントルイスで開催。そのように回を重ねるに従って組織としての完成を遂げていくわけであります。ライオニズムの目指しておりますものは「奉仕団体の設立」であります。〝世界最大、且つ最も有効な奉仕者グループとなる〟ということであるわけです。メルビン・ジョーンズが自問自答の中でその考えを固めていったものは〝非利己的な人道奉仕活動のための足がかり〟というものを〝社会的地位を得ている人々の余暇を結集する。〟ということに置いたのです。

ではロータリーはどうなのか。皆様よくご存知のロータリーをライオニズムの成り立ちと比べながらもう一度おさらいしてみたいと思うわけです。

1905年ロータリーが創立されました当座は一業種から一会員を選ぶ。4回続けて欠席したら会員資格喪失という今日に続く大原則が打ちたてられてはおりますが、日常のロータリーの会合というものはやはり相互援助であり互恵主義というあと

から出来たビジネス・サークルといった沢山の他のクラブと変わらない運営をしていたわけであります。然し他のクラブがいつまでたっても互恵主義、お互いの背中の流しっくらに沈迷しまして、やがて惰性と無気力にむしばまれつゝあります時に、ロータリーは創立2年目にして早くもこれに対する反省というものが漠然とではありますがはじまっているのです。2代目会長のアル・ホワイトが友人の弁理士のドナルド・カーターに入会をすゝめます。然しドナルドはアル・ホワイトから互恵主義の説明を聞きまして即座に入会を断わるのです。その理由は、こういった種類の活動というものは、クラブ内部の利益交換である。対社会的な意義に欠けているからこれだけに終始するクラブには将来性はなく、又意義も認められないというものでした。この報告を聞きポール・ハリスはさすがに人物ですから直ちにシカゴロータリークラブの定款改正を提案しまして定款の中の綱領に「シカゴ市の利益を推進する」という項目を加えたのです。そして翌年の1907年には対社会的な実践活動としてシカゴ市の公衆便所設置の運動をはじめています。

やがて互恵主義というものはシカゴロータリークラブに於いては1912年に廃止される事になります。メルビン・ジョーンズがビジネスサークルに入会する前年であります。

ロータリーが他の団体と決定的に異なる理論的根拠というものを開発してその奉仕団体には類のない特色をもったロータリーの世界というものを展開していきますのは1908年にアーサー・フレデリック・シェルドンの入会を得てからということになります。このシェルドンという人はミシガン大学で販売学を学んだ人ですので、先ず商取引というものから出発します。商取引は売り手買い手双方の満足なくしては成り立たないという考えを持ちます。長期に亘って安定した利潤をあげるためには売り手買い手の間に信用確立という精神的境地の出来上る事が大事であると考え、この考えを社会一般の不変的観念として広げていったものが相手方の為に考えようとする心の動き、奉仕の心というものになってロータリーの他に類のない特色を形づくっていくわけです。それが遂にHe profits most who serves best という最もよく奉仕する者、最も多く報いられるという言葉になって1911年の第2回の全米ロータリークラブ連合会のポートランド大会に発表されるわけです。続いてミネアポリスロータリークラブの初代会長でありました弁護士フランク・B・コリンズがService not self の後にService above self となる超我の奉仕について述べましてこゝに二つのロータリー標語が生まれ、大会によって採択されて今日に及んでいるわけです。こういった流れは更に深まり1913年の大会決議に基いて15年のサンフランシスコ大会では有名なロータリー道徳律が採択されるに至るわけです。又この大会決議によりフィラデルフィアロータリークラブでの会員でありましたガイガンディカーを委員長とするＲＩ理論教育委員会というものが設置され、この委員会によって「ロータリー通解」をあらわすことになるわけです。この本はロータリーの基本理念と原則を正確に書きとどめたもので、この書物を貫く思想は最も崇高なロータリー精神の提唱でして純粋なること、その例を他に見ないものがあるのです。これと前後してロータリーは一丸となり身体障害児へ人道的慈善の手をさしのべるべきであると提唱する行動派の活発な動きもありました。この動きは理論派の強行な反論と激突しまして全アメリカのロータリーは大論争に巻きこまれ分裂の危機に直面したと思われた時にテネシー州のナッシュビルクラブがこの二大対立を見事に氷解させる決議案を1923年セントルイス大会に提案してきました。これが有名な、そして今問題となっている決議23－34でございます。理論派、行動派双方の主張をたくみにかみ合わせながら、ロータリーの底

深い哲理と創立から20年近くに及ぶ歴史の中で打ちたてられてきましたロータリーの基本的特色というものを明瞭な文体によって結実させた記念碑的大文字となるわけであります。その内容は①ロータリーとは利己的な欲求と他人の為に奉仕したいという感情との間に存在する矛盾をやわらげようとする人生哲学である。②ロータリークラブは奉仕の哲学を受入れ、その理論を学び個人としてその理論を日常生活に実践する。又、地域社会にもその実例を示していく事である。③国際ロータリーは奉仕の理想を育成しロータリークラブを設立し、且つ激励し情報交換所として各クラブに強制でなく有益な助言を与えることである。④奉仕する者は行動しなければならない。ロータリーの哲学は単に主観的なものであってはならないそれを客観的な行動にあらわさなければならない。
⑤各ロータリークラブは絶対的な自主権を有している。無論綱領を無視したり、ロータリーの本来の目的を危うくしてはならない。クラブに対して有益な示唆を与える事はあっても何かを命じたり禁じたりする事は絶対にしてはならない。⑥ロータリークラブが団体活動をする場合の指針を6項目について述べたあとで、クラブが一かたまりとなって行動するよりも広くすべてのロータリアンの個々の力を動員するものゝ方がロータリーの精神により叶っている。と結んでおります。
この項が1984年版手続要覧から削除され物義をかもし出したことはすでにご存知かと思います。その後の国際ロータリーの説明は二転・三転しました。国際ロータリー自身が奉仕活動の実施主体になろうとする強い願望の線上に今回の削除の要因があろう事はあきらかです。決議23－34の標的とされる部分は第3と第5項でしょう。来年2月の規定審議会で決議23－34が抹消されたならば一体ロータリーはどうなるのか。
1923年以前の理論派と行動派の大論争となるのか。或は組織の分裂を招くのか。
いずれにしてもロータリーはその歴史を失なうであろうと思います。初期に於いて、すでに他の奉仕クラブには類をみない特色を形づくり、底深い哲理と実践の金字塔を打ち立てゝ参りました。
その誇るべき歴史を失うことになるであろうと思うのであります。
── こののち約1時間に亘り、質疑応答、討論の時が持たれ、当クラブとしては、是非23－34号の復活をということが決議されました。 ──

≪スマイルボックス≫　委員長　古川　巌君

津田　進　直前ガバナー　昨年度は色々お世話になりました。本日も宜しくお願い致します。
池田升雄君（横浜瀬谷）いつもお世話になります。
保坂芳秀君（横浜瀬谷）お邪魔します。宜しくお願いします。
星　幸男君（大和）本日も宜しく。
籾山芳久君（大和）大変すばらしい秋晴れのお天気になりました。本日は宜しく。
奥岨宏一君（大和）お世話になります。
金未　守君（大和）いつもお世話になります。お蔭様でやっと県央日韓親善協会の臨時総会の運びとなりました。
堀　一一君（大和）本日もお世話になります。宜しくお願い致します。
矢島　悍君（大和）お世話になります。
妻倉　旭君（大和）本日はお世話になります。
水島　浣君（大和田園）久しぶりにお邪魔致しました。本日も宜しくお願い致します。
仁藤文次郎君（大和田園）本日もお世話になります。
菅沼善治郎君（大和田園）今日も宜しくお願い致します。
関沢忠雄君（大和田園）本日はお世話に相成ります。宜しくお願い致します。
福田武辯君（大和田園）お世話になります。

お詫び： 紙面の都合上会員の方々のスマイルは次回に掲載させていただきます。